

報告事項

平成30年度第3回鳥取県立博物館協議会の概要について

平成30年度第3回鳥取県立博物館協議会の概要について、別紙のとおり報告
します。

平成31年3月15日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

平成30年度第3回鳥取県立博物館協議会の概要について

平成31年3月15日
博 物 館

標記協議会を開催しましたので、その概要等を下記のとおり報告します。

記

- 1 日 時 平成31年3月14日（火）午後1時30分から午後2時40分まで
- 2 場 所 鳥取県立博物館会議室
- 3 議 題
 - ・平成30年度（下半期）博物館事業の実施状況について
 - ・平成31年度博物館事業の予算について
 - ・鳥取県立美術館整備の検討状況について

4 主な意見

（1）平成30年度（下半期）博物館事業の実施状況について

- 現代美術の企画展「ミュージアムとの創造的対話」はコアなファンや若い人が多かったという印象を受けたが、一般の人には展示内容が難しく内容がわかりにくい印象。良い展示ではあったが、関心が少ない人にもわかりやすくする工夫が必要ではないか。
⇒・若い層に届く展示をしたいという思いがあったが、多くの方には解りにくい展示となり反省している。次の現代美術を扱う企画展では、ワークシート等を活用するなど誰にでも解りやすい展示となるよう工夫したい。

（2）平成31年度博物館事業の予算について

- 「県民がつくる美術館事業」の地域団体等への活動補助の内容はどんなものか。関心を持っている若者グループ等がいるので紹介の声かけをしたいと思う。
⇒・新美術館開館に向けて、地域団体等が行うワークショップなどの様々な意欲的な活動を県として支援したい。予算額は40万円であり今後様々な動きが出てくれば、さらなる予算の充実も検討していきたい。
・補助制度の周知はとりねっとや当館ホームページ、様々な会合等の機会で紹介していく。

（3）鳥取県立美術館整備の検討状況について

- 検討状況はよく解るがどういう美術館ができるのかを知りたい。美術館の売りも欲しい。
⇒・新美術館の特色は整備基本計画でも示しているところ。地方の公立美術館として、あまりに特化した美術館は難しさもあり、これまでのコレクションをベースに収集方針のウイングを拡げて新しい展開を模索していきたい。
・建物のデザインは、事業者提案の公開プレゼンも想定しており、事業者の決まる来年度後半中には見えてくると見込んでいる。

5 その他

- ・協議会終了後、今後の博物館改修に向け参考となる他館の改修事例などに関する委員勉強会を開催した。

《参考》委員名簿

氏名	役職等
石谷 孝二	鳥取大学名誉教授
李 素妍	鳥取大学地域学部准教授
木ノ下 智恵子	大阪大学 21 世紀懐徳堂准教授、アートプロデューサー
郡山 鈴夏	山陰海岸ジオパーク推進協議会ジオパーク専門員
坂本 敬司	前鳥取県史編さん室長
<議長> 谷口 博繁	元鳥取県立博物館長
田村 閑美	鳥取女性中央会理事
鶴崎 展巨	鳥取大学農学部教授
中尾 廣太郎	鳥取東部美術家協会会長
野地 恒有	愛知教育大学教授
前田 明範	元倉吉博物館長
矢田貝 繁明	大山自然歴史館長
山口 朝子	鳥取県家庭教育アドバイザー
米田 恵子	鳥取市立富桑小学校校長